

# やまびこ

やまびこネットワーク情報誌 VOL.7 2

発行日 平成25年3月28日

編集 地域づくりネットワーク長野県協議会

事務局(長野県総務部市町村課地域振興係内)

電話 026-232-0111(内線 2127)

FAX 026-232-2557

E-Mail [s-shinko@pref.nagano.lg.jp](mailto:s-shinko@pref.nagano.lg.jp)

URL <http://zuku.umic.jp/hp/ynet/>

## 平成25年度 地域づくりネットワークの新事業 共同活動支援事業の募集を行います！

平成25年度から、地域づくり団体相互の交流を促進し、自主的・主体的な地域づくりの取組を促進することを目的として、複数の加入団体による自主的な共同・交流活動への助成を始めることとなりました。(詳しくは同封したお知らせをご覧ください。)

### 募集期間 平成25年4月8日(月)～平成25年5月31日(金)

【助成対象】 2以上の地域づくり団体により、企画・実施される、団体相互の交流や研修を目的とした事業。

- ・支部内の団体が共同で開催する講演会や研修会
- ・支部の範囲を越えて、同種の団体が集まって行うイベント など

【助成の対象とならない経費】

- (1) 食糧費(ただし、事業実施に不可欠な原材料費等は除く。)
- (2) その他、地域づくりネットワーク長野県協議会長が不相当と認める経費

【助成金の額】 10万円以内

【助成金の申請】 助成金交付申請書に、収支予算書・資料を添付し、支部事務局まで提出してください。(詳しくは同封したお知らせをご覧ください。)

### 「地域づくり団体全国協議会」へ登録しましょう。

#### 登録するには

別紙「地域づくり団体全国協議会プロフィール集作成のためのアンケート」を作成し、事務局まで提出してください。<※様式は協議会ホームページにも掲載しています。>

#### 全国協議会に登録(無料)すると、次の特典があります

- ・全国の仲間の活動や最新の情報が満載の情報誌「地域づくり」が毎月送付されます。
- ・地域づくりに資する研修会等を開催するための講師招聘費用を助成。  
(上限 謝金：10万円 旅費 10万円まで ※助成には交付条件、採択件数に限りがあります。)

### やまびこネットワークの新しいメンバーをご紹介します。

<支部名>	<名称>	<活動内容等>
諏訪支部	環境会議諏訪	諏訪地方の自然環境を守り、豊かな森林づくりを進める
諏訪支部	一般社団法人ソーラーLED普及協会	自然エネルギー及びLEDの普及促進を行うことにより、環境の保全、経済の活性化を図る
長野支部	信濃ミツバチの会	福島原発事故の教訓を学び、二度と痛ましい事故を起こさないための学習と支援(映画会の上映)

◎新たに3団体が加入し、3月現在の会員数は137団体になっています。

**木曽支部発**  
**～ 木曽支部の活動を報告します ～**

平成24年11月6日(火)午後3時から2時間超にわたり、木曽合同庁舎講堂において、平成24年度「地域発 元気づくり支援金」木曽地域事例発表会を行いました。

この発表会は、平成23年度の支援金事業の中で特に優れた事業の表彰や優良事例の発表を行うものです。特徴的な地域づくり活動を行っている団体の取組事例に学び、他の団体などとの交流や情報交換を通じて地域づくり活動への理解を深める好機として、支部事業に位置付けて開催したものです。

発表会には支部の会員をはじめ60人近い聴衆が集まりました。そのなかで表彰団体をはじめ5つの団体から6つの活動事例が発表され、皆さん熱心に耳を傾けていました。

まず、知事表彰に選ばれた「先人から学ぶわらの文化」を実施した特定非営利活動法人ふるさと交流木曽(木曽町)から発表がありました。この事業の背景には、かつて先人たちの生活の中にあった、草履や蓑などの「わら」の文化が生活の変化から忘れられ、消えようとしていることがあります。それに対して行った、わら細工を資料として残しつつ、先人の技術を次世代へ伝えていくための指導者養成の活動等について紹介していただきました。

次に、木祖村自然同好会(木祖村)から、「全国ため池百選」にも選定されている木祖村の「あやめ池」を地元住民協働で整備等を行った「あやめ池」周辺の荒廃地整備と花木の植栽事業」について発表がありました。

このほかに、地域の伝統芸能の発表の場を設け、観光振興に役立て、保存継承にもつなげようと取り組んだ妻籠宿観光協会(南木曽町)の「妻籠宿地域伝統芸能継承者育成」について発表等がありました。

また、開始1時間前の午後2時から、平成23年度に支援金事業を行った団体にご協力いただき、活動内容の紹介や成果品などのパネル展示を行いました。こちらも皆さんに熱心にご覧いただきました。



【受賞者の記念撮影】

(H23 支援金事業で作成したゆるきゃらと)

(左:美林ちゃん・右:ほかにゃん)



【発表会の様子】

**北信支部からの活動報告です!**  
**～平成25年のやまびこフォーラム開催について～**

こんにちは。

今回はすっかり春めいてきたとはいえ、まだまだ日陰には雪が残るこの北信支部から、最近の活動状況について皆さんに紹介したいと思います。

まず、北信支部についてですが、現在の会員数は7団体で全て飯山市を拠点として活動している団体で構成されています。会員皆さんの活動は様々で、集落の活性化を目指して活動している団体、循環型の持続可能な農業を目指している団体、全国有数のロングトレイルを管理・運営する団体、様々な主体が連携して地域を元気にする活動をしている団体など、皆さん深く、ゆるぎない信念のもと日々活動されています。



ここ数年は支部で集まって何か一つのことを行う、ということはありませんでした。しかし今年には木村支部長から再三「もっと支部のメンバーを増やす活動をしましょう。」という提案があり、8月に支部のメンバープラス元気づくり支援金活用団体との情報交換会を行いました。ちょうど5か年計画策定期間でもあったことから、「未来の北信地域を語ろう！」と題してこんな地域になってほしい、こんなことに力を入れていったらよいのではないかなど活発な議論をしていただき、情報交換会としてはとても有意義な会となりました。



また、年明けには県協議会から「平成 25 年度のやまびこフォーラムは北信ブロックなので、長野支部か北信支部どちらかで開催をお願いします」という話がありました。過去 14 回実施しているフォーラムですが、北信支部での開催は過去 1 回もなく、従来は長野支部にいつもお願いしていました。

しかし、また長野支部にお願いするわけにもいかず、さっそく支部の集まりを設け、皆さんの率直な意見を聞きました。事務局の大方の予想に反して？会員の皆さんからは「飯山でやろう！」「いい機会じゃないか！」と大変前向きな意見が大半を占め、その後も木村支部長を中心に企画案が検討され、概ね下記のような方向性が支部内で了承されている状況です。

【現時点での平成 25 年度やまびこフォーラムの企画案】

1 開催日時	平成 25 年 11 月 16 日（土） 10 時から
2 会場	メイン会場 なべくら高原 森の家 分科会会場 飯山市内の集落及び栄村被災集落
3 内容	<p>(1) テーマ等            テーマ：「集落を考える」            北信地域、特に飯山市以北の木島平村、野沢温泉村、栄村は、過疎化・高齢化が急速に進展していることから、地域の支えあう力が低下し、集落の維持そのものが難しい状況となってきている。特にこの地域は豪雪地帯で、雪下ろしなどの作業について一人暮らし世帯への対応なども問題になってきており、集落あげての取組みも始まっているところである。            このような傾向は当該地域のみの問題ではなく、中山間地域を多く抱える県としての課題でもあることから、本地域の課題、取組みが他地域へのヒントとなるのではないか。</p> <p>(2) 昼食交流会            ・参加者全員が交流する場として、昼食を地域の旬の食材を使用したなべをふるまう「北信版天然きのこ汁会」を開催            ・その他管内市町村毎の自慢の惣菜、笹ずし、おむすびを提供する。</p> <p>(3) 分科会            ・各集落に移動し、集落維持・活性化のために取組んでいる内容を視察し、住民との意見交換を行う。</p>

北信支部としては、「フォーラム開催」を契機に会員拡大と地域における団体間の相互交流を活発にすることを狙っています。来年の今頃、少しでも会員が増えていれらうれしいのですが・・・

いずれにしても、今後詳細決まり次第、幹事会やこの機関紙「やっほー」、HP等通じて情報提供させていただきたいと考えています。

「やまびこフォーラム」は団体の皆さんの相互の交流の場です。我々少ないメンバーで出来る限り皆さんが参加してよかったな、と思えるフォーラムにしたいと考えていますので、多くの方にご参加いただけるよう、ご協力をお願いします。

## 上小支部発 ～上小支部の活動を報告します～

情報発信の講座を実施！

平成 25 年 3 月 9 日（土）、16 日（土）

コワーキングスペース「HanaLab.」(上田市常田)



地域づくりなどに取り組む皆さんの情報発信をもっと効果的に行うために「伝えるを学べる無料講座」を上小地域連携推進会議と共催で5講座実施しました。各回 30 名～40 名の参加者がありました。

3月9日（土）午前は「メディアによる情報発信を学ぶ」というテーマで、株式会社共立プランニングの森本克美さんに講師をお願いしました。広告業界全体のお話や、これからは「総合型コミュニケーション」の時代、様々なメディアをニュートラルな状態としてとらえて、メッセージを最大化できる方法を使っていくことが大事だとお話いただきました。

午後は、「情報の編集を学ぶ」というテーマで、有限会社デザインルームエムの間島賢一さんに講師をお願いしました。間島さんには、今回の講座

のチラシもデザインしていただきました。お話の最大のポイントは、「セリングポイントからベネフィティングポイントへ」（売り手、作り手の目線から買い手、利用者の目線）という事でした。今回のチラシをどのようにデザインしたのか教えていただき、実際に事例を取り上げて、あらためてキャッチコピーや説明文を考えるという実習も行いました。

3月16日（土）午前は、「ソーシャルメディアの活用を学ぶ」というテーマで、長野大学企業情報学部教授の前川道博さんに講師をお願いしました。ソーシャルメディアを使うためのポイントとして、生きることを楽しむツールであること、使うときは「ずく出さない=がんばらない」ことが大事であるとのこと、そして、ソーシャルメディアがあることによって地域にある「ホンモノ」を発信することができるようになったため発信しないのはもったいないというお話でした。

午後1コマ目は、「Facebook を活用した海外への情報発信を学ぶ」というテーマで、上田市別所温泉にある旅館上松屋の倉沢春之介さんに講師をお願いしました。上松屋さんは甲信越地域の Facebook ページ全体で「いいね」の数が1位、全国の旅館の Facebook ページでも「いいね」の数が1位です。どうやってそうなったのか、ポイントについてお聞きし、日本語・中国語・英語3か国語での情報発信や、ターゲットにする国民性に合わせた色や言葉の使い方が重要であるとお話をお聞きしました。

午後2コマ目は、「メディアツールの選定と有効活用を学ぶ」というテーマで、NPO 法人 UFM 理事長で、上田市内に 10,000 部配布されているフリーペーパー「うえだ Navi」編集長の池松勇樹さんに講師をお願いしました。情報発信は情報発信元を明確にして信頼してもらえるようにすること、情報の受け手に対して発信者の熱意が伝達出来るように作っていくこと、情報の受け手の年齢や職業などを考え、その環境のなかで一番情報を受け取ってもらいやすいメディアを選んで発信していくことなどのお話がありました。